

タブレットで三位一体！！「友だち・教師・地域」の調べ学習

秦野市立上小学校 教諭 山口 栄一郎

キーワード：小学校，3年生，社会科，伝統行事，L T E回線

実践の概要

秦野市の西部に位置する本学区には、多くの集落で道祖神が祀られている。そこで3年生の社会科で、3つの班に分かれて道祖神について調べることにした。タブレットを効果的に活用することにより、自分たちの地域の良さや多様さを再発見する学習を展開できると考えた。

1. 目的・目標

(1) 調べ学習に行く前のタブレット活用

- ①上地区に伝わる小正月の伝統行事を担当が記録する。
(ドンド焼き、アクマッパライ、屋根替えなど)
- ②事前に記録した伝統行事を児童が視聴し、質問したいことを話しあう。
- ③自分が考えてきた質問事項をタブレットに記録する。

(2) 調べ学習を行う際のタブレット活用

- ①インタビュー時に、タブレットに保存した質問事項を見ながら質問する。質問者と記録者に分担して、インタビューを行う。
- ②インタビュー等で見聞したことを記録する。
- ③自分が知ったことなどを、L T E回線を通じて、他の班にも知らせる。他の班が調べている道祖神の様子も知り、比べてみる。

(3) 調べ学習後のタブレット活用

- ①記録した映像や写真を確認して、情報の整理と取捨選択を行い、発表用のスライドの原稿を作る。
- ②秦野以外の道祖神についても調べてみる。
- ③記録した映像や写真、インターネットで知った情報を合わせて、発表用スライドを完成させる。
- ④地域の方々や保護者、2年生に調べた道祖神について発表し、地域の願いや多様性を知る。

2. 実践内容

2. 1 調べ学習に行く前のタブレット活用

児童は、ドンド焼きなどへの参加を通じて道祖神について知ってはいるが、詳しい言われや他の集落でどのような行事が行われているかまでは知らない。また、それらの行事は、休日や夕方から夜間に行われているので、クラス全体で見学を行うことも難しい。

そこで、まずは担任が3つの集落の道祖神に由来する行事をタブレットに記録をしておき、次時の授業で提示した。児童からは「うちの地区とは違うなあ」、「他の集落の行事を初めて見た」などの感想や質問してみたいことが相次いだ。

行事の名前は同じでも、自分が知っている形態とは別の形態のお祭りが行

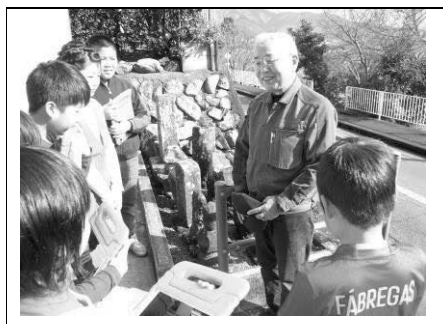


写真1 現地での調べ学習の様子

われていることを知り、関心を高めることができた。

そこでクラスを3グループに分けて、それぞれの集落で行われている道祖神の行事や屋根替えなどを視聴し、道祖神について調べる計画を立てた。児童がノートに書いた質問事項をタブレットに記録し、グループ内で質問者と記録者を入れ替えることも伝え、「全員が質問者であり記録者」であることを確認して、八沢、柳川、菖蒲小原地区の道祖神調査に向かった。

【本単元の学習内容】	学習活動	児童活動	指導上の留意点
<p>●指導目標／道祖神や祭りにたずさわる人々から話を聞いたり、調べたりして、継承する人々の思いに気づくことができるようにする。</p> <p>●評価／道祖神や祭りについて調べ、見聞きした情報をタブレットに記録し、地域の人々の思いや願いに気づき発表する。</p> <p>【指導略案】</p> <p>●単元指導計画（全体時間8時間）</p> <p>(1)上地区の年中行事を知ろう（1時間）</p> <p>(2)道祖神やアクマッパライを知ろう（1時間）</p> <p>(3)道祖神を調べる計画を立てよう（2時間）</p> <p>(4)道祖神について調べ、見聞したことを交流し合おう（2時間）</p> <p>(5)調べた道祖神についてまとめ、人々の願いを知ろう（3時間）</p> <p>(6)調べた道祖神について発表しよう（1時間）</p> <p>●本時の目標と展開 平成29年2月 児童数19名</p> <p>道祖神の話を聞いたり、調べたりして継承する人々の思いに気づき、タブレットを通じて見聞したことを交流し合う。</p>	道祖神や行事についてインタビュー	予め考えてきた質問をする。記録者は、撮影をする。	質問者と記録者に分け、途中で入れ替える。
	道祖神等の写真を撮る。	道祖神や石塔、お堂などの様子を撮影する。新たに気づいたことがあれば、質問をする。	地域の方々へのインタビューが終わってから、撮影をする。
	分かったことを、他の班に送信する。	道祖神について分かったことを、他の2つの班に発信する。	予め決めていた友だちに送る。
	他の道祖神と比べてみる。	他の班が調べている道祖神のことを知り、自分たちが調べた道祖神と比較する。	撮影した写真にコメントを入れ、建立年や形、お供えもの、屋根の材料などについて情報交換しあう。

2. 2 調べ学習を行う際のタブレット活用

これまでの校外学習では、プリントに書いた質問事項を見ながら質問をしてきたが、3年生では聞いたことをメモするのに時間がかかり、聞き洩らしも多かった。

そこでインタビューの様子は全てタブレットに記録することで、質問者は相手とのやりとりに専念することができた。質問の際、事前に視聴した映像や写真を地域の方々に提示し、内容を明確に伝えることもできた(写真1)。

道祖神の様子について写真を撮る際には、撮る理由が明確なものに限定し、1人あたり10枚程度とした。

インタビューで知ったことや道祖神の様子などを、LTE回線を利用して他の2つの班に向けて知らせる活動を試みた(図1)。児童が知らせた内容は、道祖神の形態や建立年、屋根材の材質、お供え物、紹介してくれた地域の方についてなどをお互いに伝え合いと比較をし、道祖神についてより深く知ることができた。

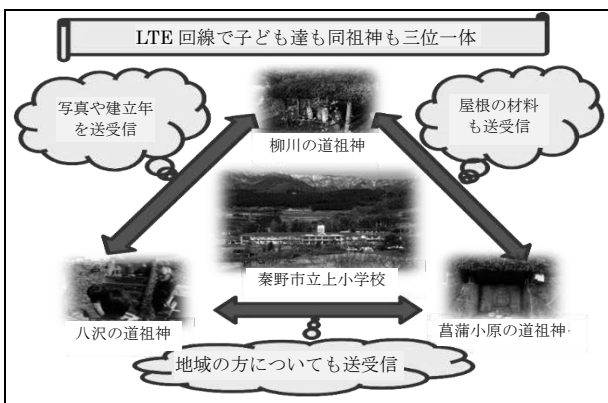


図1 LTE回線を利用した連携

2. 3 調べ学習後のタブレット活用

学校に戻った後、記録者が撮影した動画や各々が記録した写真などを見ながらグループ内で話し合い、発表用のスライド作りを行った。記録した写真や映像から、どの部分をスライドに載せるかについては、各グループ内で活発な意見交流が行われ、情報の取捨選択を行うことの重要性を認識することができた。

スライドには、地域の方々が説明している動画や記録した写真、図書室の本などを利用し、そこに端的な説明を入れたスライドに仕上げるよう心がけた。

また、上地区以外の道祖神の様子を知るために、インターネットでの検索も行い、長野県安曇野市と山梨県甲州市の道祖神や屋根ふきなどの資料を児童が見つけ、比較対象としてスライドの中に導入する班も見られ、タブレット活用による利点が見られた。スライド作成の際に使用した参考資料は、出典を明示させるようにした。

作成したスライドは、3月の学年末にお世話になった地域の方々や保護者に向けて発表した。タブレットで作成したスライドをテレビに映しながら、グループ内で分担して発表を行った。拙さも見受けられた発表ではあったが、地域の方々が道祖神や行事などを大切にしていることに気づき、それを自分たちの言葉や映像で表現・発

表することで、地域の方々や保護者に上地区の多様な姿を子ども達なりに伝えることができた。

3. 成果

実践学年が3年生であり、タブレットが導入されて半年ほどの状態であったことから、十分に使いこなすまでには至らない面も見られた。しかし、それでもタブレットを活用することによって、児童の学習活動は飛躍的に活性化し、内容的に深めると共に時間も大幅に短縮できたことは大きな収穫となった。

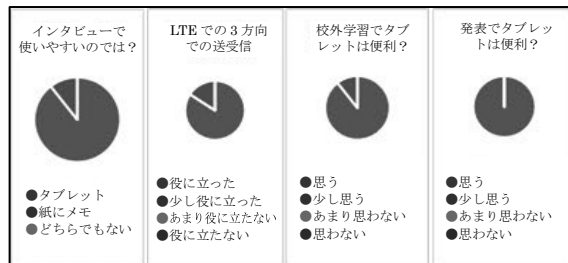


図2 タブレット活用に関するアンケート

校外学習の前段階では児童の興味・関心を高める資料提示としての活用、見学時ではインタビューに専念することができ他の班との交流によってさらに学習を深めあうためのツールとして、見学後のまとめや発表などではより効果的な表現ができるツールとしてタブレットを活用した。このような活用により、紙媒体や担任のデジタルカメラなどを活用する学習よりも、児童は奥行きと広がりのある学習に取り組むことができたと感じている。

4年生への進級後ではあるが、本実践に関するアンケート調査を行った(図2)。その結果、校外学習やインタビュー、発表等でタブレットを使うことについては、多くの児童がその有用性を感じていることが伺える。また、LTE回線を利用した3方向での送受信について、便利さやリアルタイムでの情報共有により興味と関心を深め、現地で知ったことを発信したり、比較することに手応えを感じた。調べ学習やまとめ、発表などの際にタブレットが非常に有用なツールであることを児童が認識していることから、今後も有効的な活用を探っていきたい。

4. 今後に向けて

校外学習に限らず様々な学習の場面でタブレットの活用が期待されているが、次のような留意事項があると思われる。

1つ目として、タブレットをどこで活用するのかを明確にした上での利用が大切であり、それは教師側の教材研究や授業マネジメント力が必要となる。

2つ目として、情報の収集や整理、発表などを行うためには言葉で自分の思いや考えを表現する力が必要であり、児童の言語活用能力を育てることも必要である。

3つ目として、タブレットが持つ複合的な機能とモバイル性を生かす観点から、教室内に留まらず校外でも幅広い利用の可能性があることを認識することである。今後、「友だち・教師・地域」を太く結ぶツールとしてのタブレットの活用により、授業の質的転換を図りたい。